



# 函南町

## 脱炭素化戦略 及び 地球温暖化対策実行計画 (区域施策編)

概要版

令和6年1月

函南町



# 計画の基本的事項

## (1) 函南町脱炭素化戦略とは…

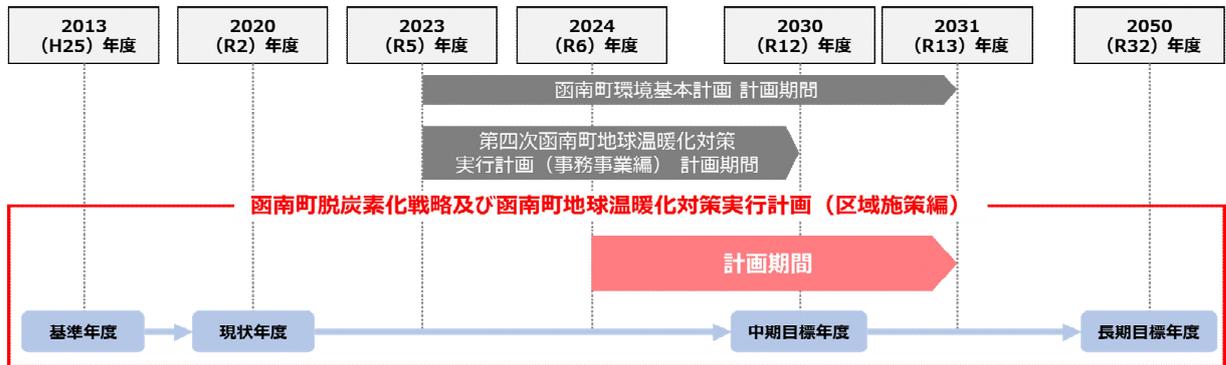
函南町脱炭素化戦略は、函南町が有する再生可能エネルギー導入ポテンシャルを把握、町の地域特性や課題を整理し、地域全体で合意された中長期的な導入目標を定めるものです。

## 函南町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）とは…

函南町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）は、地球温暖化対策計画に即して、町の自然的・経済的・社会的条件に応じた、函南町全域を対象とした温室効果ガス排出量削減等を推進するための総合的な計画です。温室効果ガスの排出量削減等を行うための施策に関する事項及びその推進体制について定めるものです。

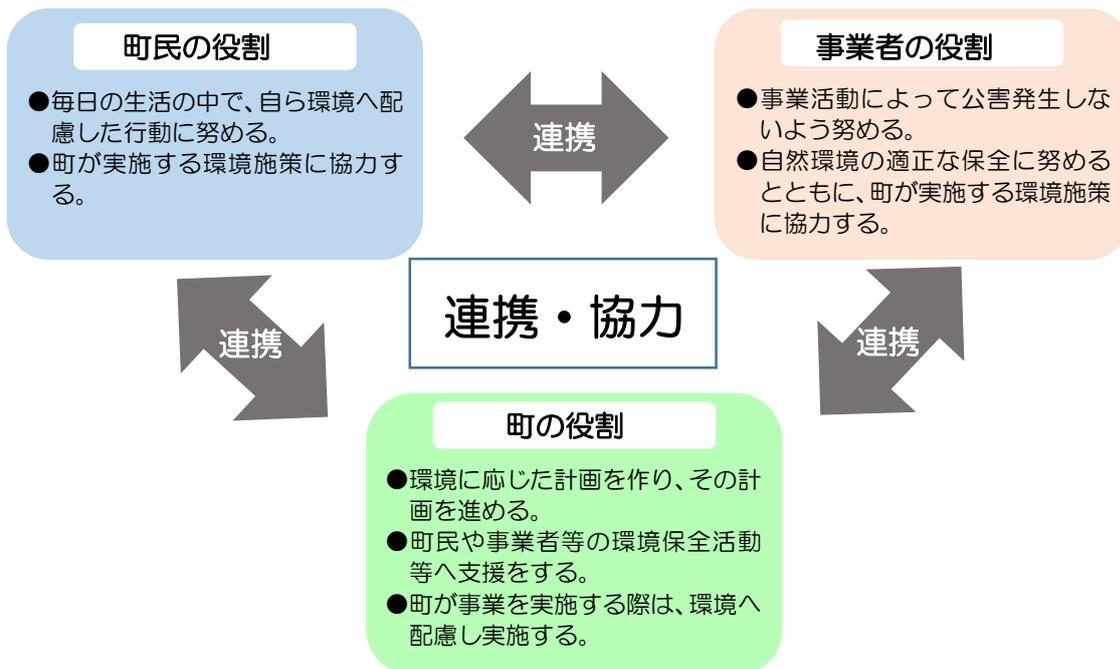
## (2) 計画の期間

本計画の計画期間は、令和6（2024）年度から令和13（2031）年度までの8年間とします。

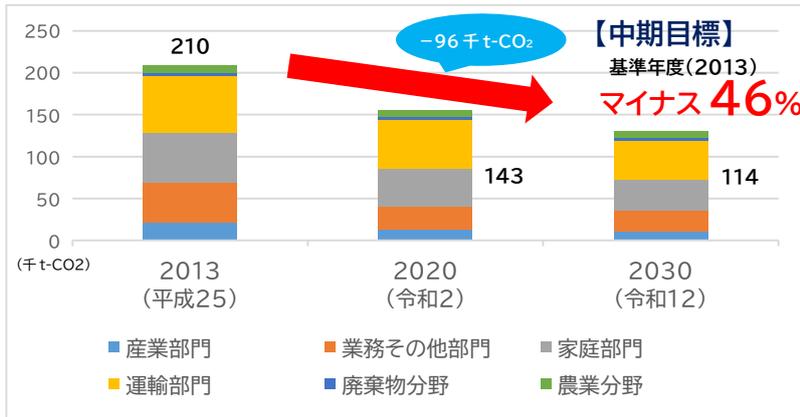


## (3) 計画の推進主体と役割

本計画を推進する主体は、町、町民及び事業者となります。各主体は、地球温暖化対策に取り組むとともに、町、町民及び事業者がそれぞれの立場で、また、相互に連携を図りながら、役割を果たすことが必要です。



■ 函南町から排出される温室効果ガス



函南町における温室効果ガスの排出状況は、運輸部門及び家庭部門の排出量が主となっています。

運輸部門は、自動車(貨物・旅客)が主な排出源で、自動車の燃料として使用されるガソリンや軽油の燃焼によりCO<sub>2</sub>が発生していることが排出要因となっています。

家庭部門は、電気・ガス・灯油などの排出要因がありますが、主要な要因としては電気の使用が挙げられます。

■ 温室効果ガス排出量 削減目標【長期目標】2050年度

【中期目標】2030年度

114 千t-CO<sub>2</sub>



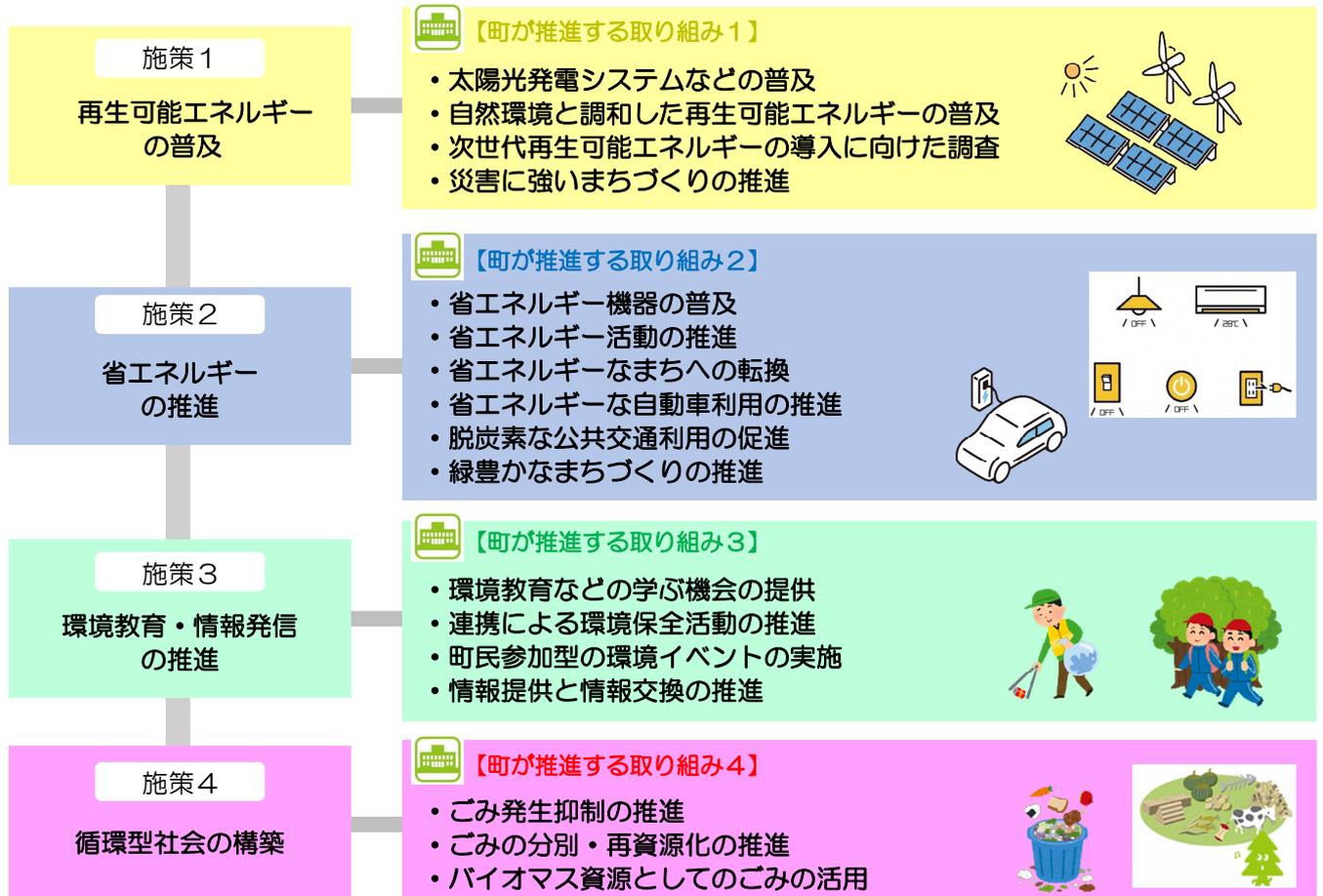
【長期目標】2050年度

実質 0 千t-CO<sub>2</sub>

※森林吸収量を含む

エネルギー効率の高い機器の普及や再エネの利用拡大、公共交通利用やエコドライブの推奨を率先して進めることで、家庭部門及び運輸部門の二酸化炭素排出量を削減します。

■ 地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の施策 町の取り組み



## ■ 町民・事業者の取り組み

町民・事業者と一緒に取り組むべき事項を「4つの施策」  
として取りまとめました。



町民の取り組み



事業者の取り組み

### 施策1 再生可能エネルギーの普及



#### ・太陽光発電システムの普及

  太陽光発電システムや蓄電池システムの導入を検討します。

#### ・自然環境と調和した再生可能エネルギーの普及

  大規模な再生可能エネルギーを設置する際は、「函南町自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例」に基づき、周辺環境との調和を図ります。

#### ・次世代再生可能エネルギーの導入に向けた調査

 水素エネルギーなどの次世代の再生可能エネルギーの導入に向けて、町と協力しながら積極的に導入を検討します。

#### ・災害に強いまちづくりの推進

  住宅や事業者への太陽光発電システムや蓄電池システムの導入を検討します。

### 施策2 省エネルギーの推進



#### ・省エネルギー機器の普及

  蓄熱システム、高効率機器、コージェネレーションシステムなどの導入に努めます。

  省エネルギー性能の高い機器を購入します。

#### ・省エネルギー活動の推進

  電化製品（照明、エアコン、電気ポットなど）の電源をこまめに切るなど、節電に努めます。

  町の環境イベントに積極的に参加します。

#### ・省エネルギーなまちへの転換

  緑のカーテンなどによる町内や事業所内の緑化に努めます。

#### ・省エネルギーな自動車利用の推進

  電気自動車やプラグインハイブリッド自動車などの次世代自動車及び充電器の設置や低燃費車の導入に努めます。

#### ・脱炭素な公共交通利用の促進

  バスや鉄道などの公共交通機関を積極的に利用します。



#### ・緑豊かなまちづくりの推進

  街路樹や公園などの身近な自然を大切にしよう努めます。

### 施策3 環境教育・情報発信の推進



#### ・環境教育などの学ぶ機会の提供

-   自然観察会、出前講座などの環境学習会やイベントに参加します。
-  学校における環境教育に協力し、子どもが学んだことを家庭で実践します。

#### ・連携による環境保全活動の推進

-   地域の環境美化活動に積極的に参加します。
-   地域の清掃活動などを通じた町民同士のコミュニケーション・ふれあいの輪を広げます。

#### ・町民参加型の環境イベントの実施

-   自然観察会などへの参加や自ら自然とふれあう機会を創出し、自然に対する知識と理解を深め、環境保全への意識高揚に努めます。

#### ・情報提供と情報交換の推進

-   町の提供する環境情報に関心を持ち、活用します。
-   町や民間団体と協力し、環境に関連する相互の交流や情報交換に努めます。
-   環境問題について自ら情報を収集し、正しい知識を深めるように努めます。

### 施策4 循環型社会の構築



#### ・ごみの発生抑制の推進

-   マイボトルやマイカップ、マイバッグを持参し、ワンウェイプラスチックなどの削減に努めます。
-   生ごみの乾燥化や堆肥化及び生ごみ処理機の活用により、ごみの減量に努めます。
-   食材の余りや食べ残しが出来ないよう努めます。
-  事業系ごみの排出抑制に努めます。

#### ・ごみの分別・再資源化の推進

-   ごみの分別ルールを徹底します。
-   不要となったものは、リユース・リサイクルするよう努めます。
-   資源の有効活用に努めます。

#### ・バイオマス資源としてのごみの活用

-  再使用・再資源化できる商品の自主回収に努めます。
-   剪定枝や木くずの分別による再資源化に協力します。
-   生ごみの乾燥化や堆肥化などにより、ごみの減量に努めます。

## ■再生可能エネルギーとは

再生可能エネルギーとは、太陽、風、水、バイオマス、地熱など自然の力を利用して、電気を作るエネルギーを指します。資源に限りのある化石燃料と違い、資源が枯れることなく繰り返し利用できるエネルギーのことです。



出典：経済産業省「なっとく！再生可能エネルギー」

## ■再生可能エネルギー導入ポテンシャル

導入ポテンシャルは、環境省が公開している REPOS を活用しています。(バイオマスを除く) エネルギーの単位である「MWh/年」は、年間で発電できる電力量。「GJ/年」は、年間で得られる熱量を示します。

### 電気ポテンシャル

種類	区分	導入ポテンシャル (MWh/年)	導入ポテンシャル / 全体 (%)
太陽光	建物系	188,625.6	36.2
	土地系	142,694.0	27.4
	小計	331,319.6	63.5
風力	陸上風力	141,368.0	27.1
	小計	141,368.0	27.1
中小水力	河川部	48,168.1	9.2
	農業用水路	0	0
	小計	48,161.1	9.2
バイオマス	木質系バイオマス	18.4	0.004
	廃棄物系バイオマス	451.9	0.09
	小計	470.3	0.09
地熱	蒸気フラッシュ	0	0
	バイナリー	0	0
	低温バイナリー	299.5	0.06
	小計	299.5	0.06
再生可能エネルギー(電気) 合計		521,625.5	100.0

- ・表中の数値は、四捨五入をしているため、合計は必ずしも一致しません。
- ・導入ポテンシャルは 2023(令和 5)年 11 月時点の公表値となります。

熱ポテンシャル

種類	区分	導入ポテンシャル (GJ/年)	導入ポテンシャル / 全体 (%)
太陽熱	太陽熱	360,026.1	19.2
	小計	360,026.1	19.2
地中熱	地中熱	1,519,262.7	80.8
	小計	1,519,262.7	80.8
再生可能エネルギー(熱) 合計		1,879,288.8	100.0

・導入ポテンシャルは 2023(令和 5)年 11 月時点の公表値となります。

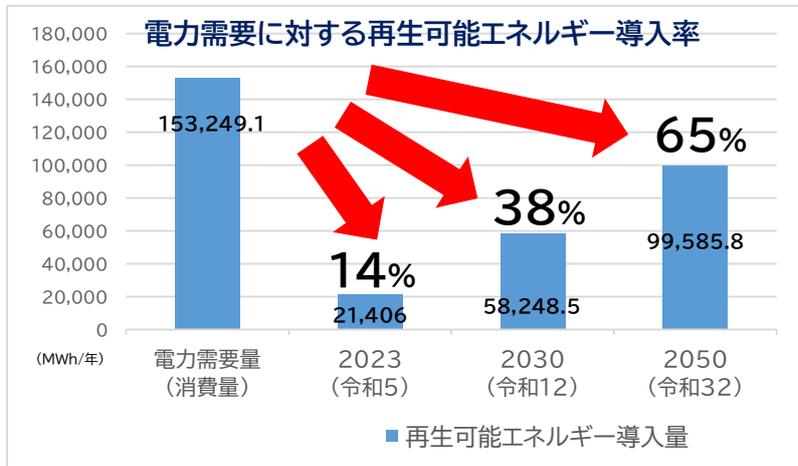
■脱炭素化戦略の方向性・取り組み

函南町における再生可能エネルギーのポテンシャルについて、電気では、太陽光・風力・中小水力・バイオマス・地熱。熱では、太陽熱・地中熱があります。

その中で、屋根などの未利用スペースに設置でき、町内で最も導入が進めやすいため、再生可能エネルギー導入目標の設定は、建物系の太陽光導入を主とします。

脱炭素化戦略の取り組みについては、地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の施策内容に合わせて、「町の主な取り組み」、「町の率先行動」、「町民・事業者に向けた促進」を示しています。

■脱炭素化戦略の目標



導入ポテンシャルや目標設定に係る配慮事項を考慮し、函南町における再生可能エネルギー導入目標を設定します。

町の導入ポテンシャルと現状の町内の電力需要(消費量)を考慮したうえで、導入ポテンシャルに対して目標値を定めています。

■再生可能エネルギー 導入目標【長期目標】2050 年度

【中期目標】2030 年度

導入率 **38%**

温室効果ガス削減量

**14.562** 千 t-CO<sub>2</sub>

【長期目標】2050 年度

導入率 **65%**

温室効果ガス削減量

**24.896** 千 t-CO<sub>2</sub>

再生可能エネルギーの導入目標を達成することにより、温室効果ガス排出量は、2030 年度で 14,562 千 t-CO<sub>2</sub> となります。削減効果が大きいため、再生可能エネルギーの導入は重点的に取り組むべき対策となります。



## 再生可能エネルギーの導入目標 内訳（種類別）

再エネ導入目標

種類	区分	2030（令和12）		2050（令和32）	
		導入目標 （MWh/年）	削減量 （千t-CO <sub>2</sub> ）	導入目標 （MWh/年）	削減量 （千t-CO <sub>2</sub> ）
太陽光	建物系	58,129.1	14,532	96,556.9	24,139
	土地系	119.4	0.030	3,029.0	0.757
	小計	58,248.5	14,562	99,585.8	24,896
合計		58,248.5	14,562	99,585.8	24,896

導入率 **38%**



導入率 **65%**

※町内の電力需要に対して

- ・表中の数値は、四捨五入をしているため、合計は必ずしも一致しません。
- ・導入ポテンシャルは2023（令和5）年11月時点の公表値となります。

## 再生可能エネルギー導入に向けた方向性

再エネ種別	目標年度		方向性
	2030 （令和12）	2050 （令和32）	
太陽光発電	拡大	拡大	屋根などの未利用スペースに設置でき、町内で最も導入が進めやすいため、優先的に取り組む。大規模な森林伐採を伴うものについては慎重な検討が必要。
風力発電	—	—	平野部は住宅地からの距離確保ができないため、取り組みが進みにくいと想定。山間部においても風力量の確保や景観、地盤対策等があるため、取り組みが進みにくいと想定。
中小水力発電	継続	拡大	河川、農業用水路において、設置に必要な流量や高低差などを確認のうえ、出力や事例を参考に取り組む。
バイオマス熱利用・発電	—	拡大	木質バイオマスは資源量が限られているため、導入可能性が低いと想定。廃棄物バイオマスは資源化、たい肥化等の循環利用を促進するため可能性が低いと想定。技術開発やコストダウン等を見据える必要がある。
太陽熱利用	継続	継続	太陽光同様に町内で導入しやすくエネルギー効率も良いが、給湯等の熱利用に限定されること、また太陽光発電との設置箇所の競合が想定されることから、太陽光発電の導入が難しい場所へ取り組む。
地熱発電	—	—	低温バイナリーの地熱発電導入ポテンシャルが若干あるものの、技術的に利用可能であると考えられる資源量が限られており、取り組みが進みにくいと想定。
地中熱利用	—	拡大	地中熱導入ポテンシャルはあるが地面の掘削に高額な費用を要するため、取り組みは進みにくいと想定。技術開発やコストダウン等を見据える必要がある。

- ・目標年度に向けた取り組みは、現時点での導入ポテンシャルに基づくものであり、今後の技術開発等により導入が進む可能性を否定するものではありません。



## ■脱炭素化に向けた施策の内容

町の率先行動、町民・事業者への促進事項を「4つの施策」に分けて取りまとめました。



町の率先行動



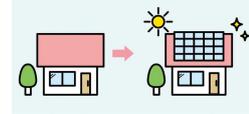
町民への促進



事業者への促進

### 施策1

#### 再生可能エネルギーの普及



目指すべき姿

- 再生可能エネルギー設備の導入が定着しています。
- 再生可能エネルギーの利用が普及しています。
- 防災拠点や住宅における太陽光発電システム・蓄電池の設置が普及しています。



再生可能エネルギーの導入ポテンシャル及び目標設定に係る配慮事項を考慮し、函南町における再生可能エネルギー導入目標を設定します。



町の公共施設において、太陽光発電設備設置可能性調査を行い、計画的な整備を行います。



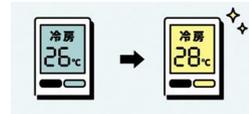
町が有する豊富な再生可能エネルギーの地域間連携による活用に向けて、動向調査等の調査・検討を進めます。



太陽光発電システムの導入に併せて蓄電池の導入による各家庭等におけるレジリエンス強化に向けて、現在実施している太陽光発電システム設備導入費補助金制度の活用を促します。

### 施策2-1

#### 省エネルギーの推進（家庭部門）



目指すべき姿

- 住宅のゼロエネルギー化（ZEH化）が進んでいます。
- 省エネ対策が徹底され、高効率機器が普及しています。



省エネ家電やLED照明等の機器について、情報提供を行い、トップランナー基準に基づく導入を促進します。



地球温暖化の影響についての理解を促進し、個々のライフスタイルに応じた効果的かつ意欲が湧く取り組みを推進し、意識改革を図るとともに、自発的な取り組みの拡大・定着につなげる普及啓発活動を実施します。



断熱等の対策で住宅の省エネルギー性能を向上することにより、エネルギー消費を削減します。



冷暖房の温度の適正化など省エネルギーなライフスタイルへの転換を行います。

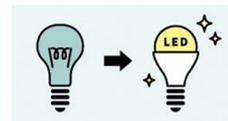


省エネ性能の向上及び省エネ機器の購入により、エネルギー消費を削減します。



## 施策 2-2

### 省エネルギーの推進（産業・業務その他部門）



#### 目指すべき姿

- 建築物のゼロエネルギー化（ZEB化）が進んでいます。
- 町内にEV充電器が普及されています。
- 町内の緑化が進んでいます。
- 森林保全・整備、農業や農地の保全・活用を行っています。



公共施設におけるLED照明、高効率空調等の省エネ機器を導入します。



事業者向けの、高効率空調や産業用モーター等の省エネルギー性能の高い設備・機器を国や県等の補助金制度や省エネ診断の活用などにより、効率的な省エネ機器の導入を促進します。



事業者における空調の適温設定や間引き照明、OA機器等の省電力設定など省エネ活動により事業所の省エネルギー化を促進します。



森林整備計画に基づき、間伐・再造林を推進し、森林吸収量拡大に向けた計画対象森林の拡大や林道整備などの検討を進めます。



森林整備計画に基づき、森林間伐・再造林の推進により、積極的な林業施策と林業雇用の拡大等を図ります。

## 施策 2-3

### 省エネルギーの推進（運輸部門）



#### 目指すべき姿

- 町内を走る乗用車、バス・タクシー、トラックなどの次世代自動車化が進んでいます。
- 省エネ対策が徹底され、高効率機器が普及しています。
- エコドライブの実施や省エネルギーな自動車利用方法が普及しています。



次世代自動車の普及に向けて、充電設備といったインフラ整備を進めるとともに次世代自動車の率先導入、普及啓発を推進します。



町からの積極的な情報提供により次世代自動車の導入を促進します。



町が率先してエコドライブを実践するとともに、町民・事業者に向けたエコドライブの普及啓発やカーシェアリング等の検討により、町の自動車利用の省エネルギー化を図ります。



宅急便は日時指定などを活用し、できるだけ1度の配達で受け取るよう周知します。



函南町地域公共交通網形成計画を踏まえ、将来の公共交通の利便性の向上を図ります。

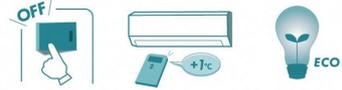


自家用車の使用頻度を減らし、バスや鉄道などの公共交通機関や自転車等を積極的に利用するよう促進します。



## 施策3

## 環境教育・情報発信の推進



## 目指すべき姿

- 環境教育や情報発信の取り組みが町全体に浸透しています。
- 町民、事業者が率先して環境保全活動を行っています。



学校と連携し、社会科見学や出前講座などでの環境教育・環境学習を行います。



町民、学校や教育機関、事業者などと連携した環境教育を兼ねた環境保全活動の開催を検討します。



町の発信する情報を活用し、環境教育や地域内外の交流の場へ積極的に参加し、環境保全活動を行っていただくよう促します。



子ども世代への環境教育を積極的に行うことで、脱炭素社会の実現に向けた次世代の人材育成を促進します。



町民参加型の環境イベントの開催や町民・事業者向けの脱炭素に関する情報を積極的に発信し、意識の向上を図ります。



町が発信する情報を積極的に取得し、周囲との共有等により、町全体の脱炭素に関する意識の向上を図ります。

## 施策4

## 循環型社会の構築



## 目指すべき姿

- ごみの発生抑制、分別・再資源化の取り組みが徹底されています。
- ごみ質分析調査から紙ごみ排出量の割合が減少されています。



町民及び事業者のごみの発生抑制に向けた支援策の実施や各種制度化を進めます。



食品ロスの削減など、ごみを減らすための取り組みに関する普及啓発を行います。



町民及び事業者が、ごみの分別・再資源化を行いやすい環境づくりやリサイクルを普及促進させるための場の創出、リサイクル関連の新規産業の創出を支援します。



ごみの発生抑制、分別・再資源化の取り組みと連携しながら、バイオマス資源としての活用を検討していきます。



町の支援策や制度を活用し、ごみの発生抑制を促進していきます。



ごみの分別・再資源化を積極的に進め、日常生活や事業活動において、リサイクルや再資源化の意識向上を図ります。



2023年

2030年

2050年

脱炭素化社会の実現

函南町脱炭素化戦略及び地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定

施策1

再生可能エネルギーの普及

【町が推進する取り組み1】

- 太陽光発電システムなどの普及
- 自然環境と調和した再生可能エネルギーの普及
- 次世代再生可能エネルギーの導入に向けた調査
- 災害に強いまちづくりの推進

目指すべき姿

- 補助制度の活用等による太陽光発電システムの普及促進
- 営農型・ため池太陽光、風力、水力、バイオマス・バイオガス地熱・地中熱の導入可能性検討、導入
- 次世代再生可能エネルギーの動向調査、導入
- 蓄電池の普及促進を通じた地域レジリエンスの強化

施策2

省エネルギーの推進

【町が推進する取り組み2】

- 省エネルギー機器の普及
- 省エネルギー活動の推進
- 省エネルギーなまちへの転換
- 省エネルギーな自動車利用の推進
- 脱炭素な公共交通利用の促進
- 緑豊かなまちづくりの推進

目指すべき姿

- 町民、事業者向けの省エネルギー機器の導入支援策の検討及び導入促進
- 省エネルギー活動の促進
- 建築物及び住宅のZEB化・ZEH化の推進
- エコドライブの普及、次世代自動車の導入促進、カーシェアリング等の検討
- 公共交通機関の利用促進
- 緑化活動の推進、森林の保全・維持管理の推進

施策3

環境教育・情報発信の推進

【町が推進する取り組み3】

- 環境教育などの学ぶ機会の提供
- 連携による環境保全活動の推進
- 町民参加型の環境イベントの実施
- 情報提供と情報交換の推進

目指すべき姿

- 学校での環境教育の推進
- 地域団体等の環境保全活動の支援
- 体験学習会等の環境イベントの企画・実施
- 広報等を活用した温暖化対策に関する情報を発信、意識啓発の推進

施策4

循環型社会の構築

【町が推進する取り組み4】

- ごみ発生抑制の推進
- ごみの分別・再資源化の推進
- バイオマス資源としてのごみの活用

目指すべき姿

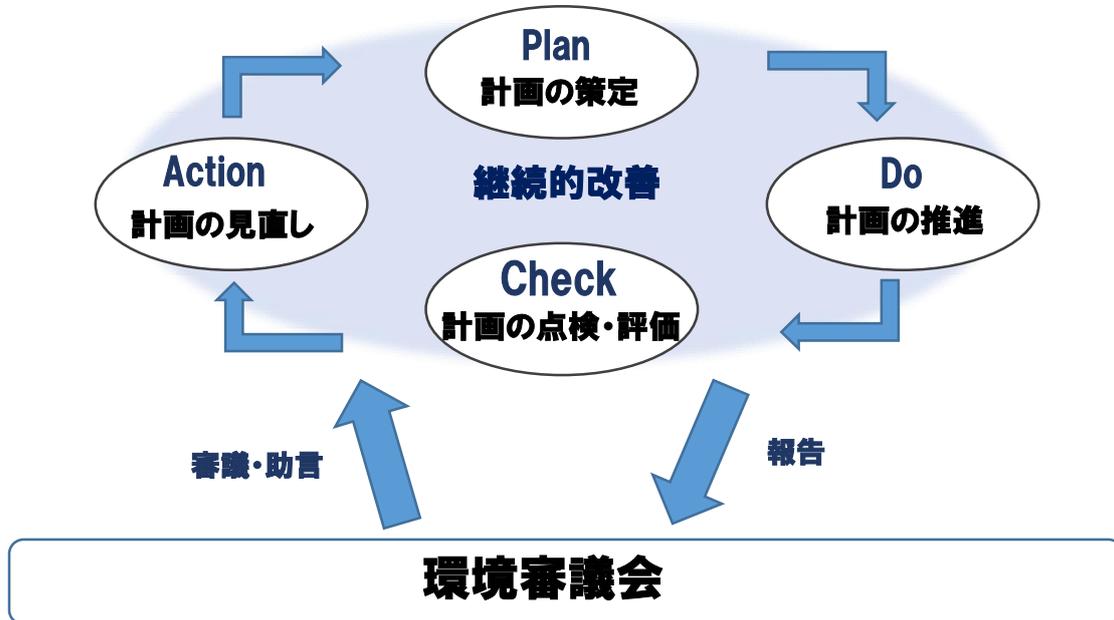
- ごみ分別強化及び再資源化向上に向けた検討
- 食品ロス削減の促進
- ごみの再資源化を通じた有効活用
- 廃棄物のバイオマス資源の活用可能性検討
- バイオマス資源の有効活用



## 計画の進め方

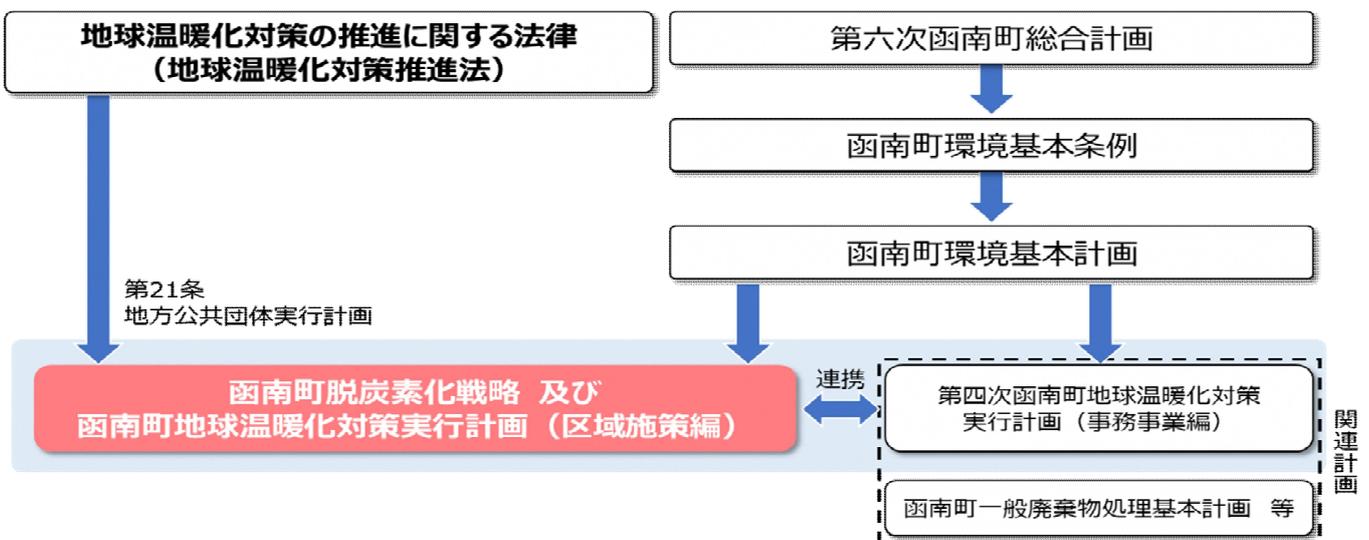
本計画を着実に実施するため、函南町環境審議会との連携を通じたPDCAサイクルを導入し、適正な進捗管理を行います。

施策の検討及び評価の際には、ロジックモデル等の活用を検討します。



## 計画の位置付け

本計画は、「地球温暖化対策推進法」第21条に基づく計画となります。町の最上位計画である「第六次函南町総合計画」における「基本目標1 快適に安心して暮らせる環境づくり」の中の「地球温暖化対策実行計画の策定と実行」として位置付けられます。また、上位計画である「函南町環境基本計画」との整合、「第四次函南町地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」などとの連携・調整を図るものとします。



# メ モ

Handwriting practice area consisting of 18 sets of horizontal dashed lines.





---

函南町脱炭素化戦略 及び 地球温暖化対策実行計画  
(区域施策編)(概要版)

---

2024(令和6)年1月発行

---

函南町 厚生部 環境衛生課

〒419-0192

静岡県田方郡函南町平井 717-13

TEL : 055-979-8112

FAX : 055-978-3027

E-mail : [kankyou@town.kannami.shizuoka.jp](mailto:kankyou@town.kannami.shizuoka.jp)